

○笠懸地区検討委員会 第3回委員会の協議内容と得られた方向性について

	〈協議①〉 児童数の推移から、4校配置を維持するのか、3校配置とするか、また、4校配置とした場合の場所について
意見の概要	①みどり市の人口が社会増になったことは理解できた。この中で、転入基はどこからなのか知りたい。桐生市が多いのであれば今後の増加も頭打ちだろうが、伊勢崎市や太田市、前橋市からの転入が多いのであれば、今後も社会増が期待できる。 →次回（第4回検討委員会）で事務局より報告する。 ②現在、笠懸9区は若い世代が増加している。南に小学校ができれば、笠懸西小と同じように人口増につながるのではないか。 ③笠懸小を南へ移転させ、学区も中学校と合わせるのがよい。 →移転した笠懸小と笠懸東小は笠懸南中へ、笠懸北小と笠懸西小は笠懸中へ ④地域の避難所のことを考慮しても、笠懸小の南への移転が望ましい。現在、笠懸町南部には避難所がなく、国道50号を越えて笠懸西小に避難しなければならない状況である。 ⑤4校維持であれば、通学に無理がない。また、笠懸小の現施設は大きすぎるし、老朽化もある。大規模改修しても笠懸西小のような環境とはならないだろう。大規模改修の議論はもうしなくてもよいのではないか。 ⑥笠懸小を南へ移転させ、現笠懸小の土地を有効活用していくことが得策になるのではないか。 ⑦移転した小学校には、笠懸西小のようにイベントスペースがあるとよい。今は、子育て団体のイベントも盛んになってきている。学校は地域のものであることを前提に地域連携スペースを充実させていくことがよい。 ⑧箱物建設には反対の立場の方もいる。避難所や地域の交流の場としていくことで、単純な箱物建設とは違った意味を持たせることができるなど、より価値のある建物となるだろう。

	⑨長い目で見れば、笠懸東小や笠懸北小の老朽化への対応も出てくる。その時のことまで考えると、現時点で移転させておくことがよい。いつ起こるか分からない災害も踏まえて新しくしておく。その際、大きくて立派なものとならずにコンパクトかつ地域とのつながりがもちやすい施設としていくべきだろう。 ⑩当面は4校維持となるが、長い目で見れば、3校配置を見通すことにもつながる。その時代の状況に合わせた対応ができる。 ⑪市の基本方針からしても、現在の笠懸の小学校を3校配置としていくのは、大間々地区との整合性が図られないことになる。検討委員会の当初から議論しているように、笠懸の検討事項は適正な配置である。
	
得られた方向性	①児童の教育環境、児童推移、人口増、避難所等の観点から4校維持の方向が望ましい。(委員会としての方向性) ②4校維持の場合、学校配置については教育委員会の基本方針のように笠懸小の南への移転が望ましい。(委員会としての方向性) ③長期的な視点に立っても、笠懸小を南へ移転しておくことで、将来の柔軟な対応が可能となる。

〈協議②〉 給食提供方式について	
意見の概要	①笠懸にも給食センターを造るという考えでよいか。 →大間々学校給食センターのキャパシティーやアレルギー対応のため新設の予定 ②提供方式について、あらためて意識調査をしてはどうか。食に関する関心度を見るためにも。
	
得られた方向性	→児童や保護者の意識、これまでの経緯等を再確認して協議するため継続協議とする。

